

進学希望者向け情報

令和2年度の進路通信も最終号となりました。これまでの通信を、皆さんの進路学習に役立てることができていますか。前号では進路指導室の案内をしました。通信を見て進路指導室に来てくれた人もいます。周りは行動を起こし始めていますよ。「3年生になってから考えるから大丈夫～」なんてのんびり構えずに、すぐに動きましょう。4月からは2年生、3年生にそれぞれ進級です。春休みは進路について考えよう！



令和2年度は、コロナウイルスに翻弄された1年でした。その中で「何のために進学するのか」を改めて考える必要がありそうです。以下に「進路新聞」(ライセンサガミ発行)に掲載された進路相談の内容を紹介します。

Question⑥

新型コロナに揺れる時代に進学する意義をどう考えれば？

Answer

令和2年は、世界全体が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けました。国内の教育機関等も例外ではなく、少なくない大学がキャンパスへの入構を制限しました。このような状況下で、さまざまな問題が浮上しました。例えば、

学費の問題です。一部で、入構が制限され、現に対面型授業が実施されていないなどの理由から、授業料や施設・設備費、実習費などの学費返還を求める動きが起きました。

また、オンライン授業の導入の動きも相次ぎました。進路情報研究センター・ライセンスアカデミーが昨夏、大学・短期大学等を対象に実施した「令和3年度入学者対象 学校基本情報等に関するアンケート」の調査結果によると、有効回答した993校のうち773校が「オンライン型授業の実施」を行ったと回答しました。オンライン授業のメリットとして、学生からは「対面授業の時よりも授業内容の理解度が上がった」「自分の生活リズムに合わせて効率良く勉強できる」といった声が聞かれているようです。一方、大学教員等による視点にも興味深いものがあります。前掲のアンケート調査結果によると、オンライン授業のデメリットとして、「オンライン授業等のインフラが課題」「実習・実技科目は遠隔授業になじまない」といった意見のほか、「オンライン授業長期化による学生・教員の疲弊」といった声も聞かれました。このほか、教職課程や医療従事者養成課程の教育実習・臨地実習など、免許状や国家試験の受験資格取得のために必要な実習等が計画通り進まないことも問題となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、入試対策を含む大きな意味での進学動向が不透明になり、進路選択活動が難しくなったとの指摘もあります。しかし、最も大切なのは、こうした社会的混乱の状況下であっても感わされることなく、なぜ進学をするのかという自分自身の軸をしっかりと持って将来を描き出していくことだと理解しておきましょう。

九州大生のオンライン授業の受け止め方 学生対象のアンケート結果から



オンライン授業は対面授業を「代替できていた」



コロナ収束後も一部の授業をオンラインでやってほしい
「思う」「やや思う」の合計

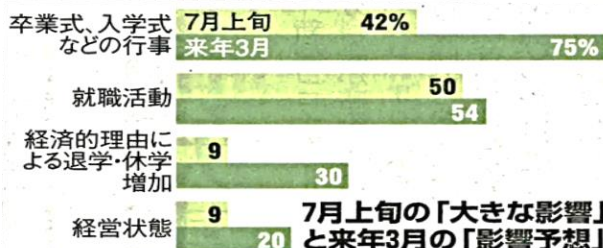


【2020年(令和2年)9月13日 朝日新聞】

孤立感・負担 1年生深刻

コロナ禍で困窮 休退学

190大学、「年度末に増加」見込む



【2020年(令和2年)11月29日 朝日新聞】

上記の2つの新聞記事データを見てください。全国の小中高校は、分散登校や時差登校等の対応で、わりと早い段階で学校での対面授業が可能となりました。しかし、大学や短大は早いところで9月~10月に対面授業が一部解禁でした。令和2年4月入学の大学1年生は、9月になって初めて大学に行ったという人も少なくないようです。大学での学びもできず、新しい友だちもできない。サークル活動もアルバイトもできず、思い描いていた大学生活が送れずに「何のために大学に進学したのか…」と思悩む学生も多かったと聞きます。

進学の見失ってしまうと、社会的混乱の中で自身の立ち位置がわからなくなってしまいます。進学を希望している人は、社会情勢と自身の進路を改めてじっくりと考えてください。保護者とも十分に話し合う時間をもちましょう。